

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2016(平成28)年度 事業報告書

(2016年6月1日～2017年5月31日)

2016年度事業概要

東日本大震災6年目の2016年度は、前年度の岩沼市に続き、仙台市でも復興公営住宅の整備が完了、集団移転先への住宅の建設も進み、プレハブ仮設住宅は全て解体されるなど、「恒久住宅」への移行＝「住まいの復興」にめどが立ってきた一年だった（仙台市内の仮設住宅居住者はピーク時の4.6%＝550世帯）一方、前年度に続き仙台市沿岸部の被災小学校の統廃合が進み、現地再建地域の子どもの暮らし・コミュニティの再生はまだまだ今後の課題となっている。

そんな中、2016年度事業も、引き続き仙台市・岩沼市近郊を中心とした沿岸地域の遊び場づくりが基軸となった。上記状況を受け、震災以降生まれた「新たなまち」と、津波被害からの再生途上にある現地再建地域の両方で、人と人のつながりづくり・営みづくりを意識した活動を展開している。統廃合のある現地再建地域では、さまざまな地域行事にも積極的に参画した。いずれの地域でも、プレーカーを活用した子どもの遊び場活動と、大人を対象とした「縁側倶楽部」など交流サロンの活動を連携させながら、子どもを中心に世代を越えた交流の場を生み出した。

また今年度は、遊び場活動が長く続いていくものにするため、地域に引き継ぎ、また地域の動きを応援するかたちでの展開が増えた。一方、2017年秋に開館する親子ふれあいプラザ「のびすく若林」の運営にも参画することが決まった。「震災後」を見据え、いかに日常の活動の中に落とし込んでいくかを考えながらの活動となっている。

なお、2005年の開園時より運営にあたってきた海岸公園冒険広場は、前年度で指定管理期間が終了したものの、引き続き震災の記憶の保存・記録の継続と共に、小学校をはじめ周辺住民・一般市民に現状を伝えていくよう努めた。これらの取り組みを、2018年夏の再開後にもつなげていきたい。その他、沿岸部では津波避難施設や海岸公園の他地区、震災遺構荒浜小学校の完成、その他みどりの再生や集団移転跡地利用など再生の動きが活発になってきた。それらの動きを見ながら、一部連携した取り組みを行った。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2016年度事業計画において掲げた6つ重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」項目	主な事業 (定款区分による)	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
① 被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり —新たに生まれたまちから現地再建地域まで—	事業1. 事業8.	◎ 新たに生まれた街に加え、現地再建地域でも遊び場新たな遊び場を展開した。
②海岸公園の再開を見据えた、冒険広場周辺での取り組み	事業8.	◎ 概ね達成
③「震災後」も見据えた、新たな拠点確保への取り組み	事業7.	○ のびすく若林の新たな運営の提案を行い、運営にあたることとなった。
④地域住民の主体的取り組みを促す活動と、そのモデルづくり	事業5. (2) 事業8.	○ 一部の遊び場は、住民運営へ移行した。住民発意の新たな取り組みの支援も行なっている。モデルの整理は、今後の課題である。
⑤被災地域を中心に、東北地方で取り組まれる遊び場づくりとの連携	事業4. 事業5.	◎ NPO法人にじいろクレヨンと連携しての遊び場の展開（田子西）を行なった。また、冒険遊び場づくり全国集会」の運営に参画、他団体と顔の見える関係づくりを構築した。
⑥組織運営基盤づくり	(9.組織運営について)	○ 中長計画を策定した。

1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築：「宮城県被災者支援総合交付金」事業

「宮城県被災者支援総合交付金」事業の一環で立ち上げた連携組織について、仙台市内分は2016年度も継続、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。

- ・荒井東町内会
- ・元ニッペリア仮設住宅自治会会長
- ・一般社団法人 ReRoots
- ・仙台市社会福祉協議会若林事務所
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区中央市民センター
- ・仙台市市民協働推進課

(2) その他、他団体とのネットワーク

- *NPO法人せんだいファミリーサポートネットワークとの乳幼児事業における連携(事業8.(2)の②・③等)
- *NPO法人にじいろクレヨンとの田子西地区の復興支援事業における連携(事業8.(2)の⑧～⑩等)
- *宮城県子ども支援会議 参加
- *七郷地区子育て交流会 参加
- *ふるさとの杜再生プロジェクト 委員
- *災害子ども支援ネットワークみやぎ 世話人・賛同団体
- *わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委委員会 委員
- *わたしのふるさとプロジェクト 参加
- *若林復興の輪ミーティング 参加(主催:仙台市社会福祉協議会若林事務所)

上記の継続的な取り組みの他、事業8.の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援（事業4・事業5）やプレーリーダー養成講座（事業6）、日本冒険遊び場づくり協会主催「第7回冒険あそび場づくり全国研究集会」の運営および参加なども通じ、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。

(2) ホームページ等での発信

昨年度スタートした facebook ページや理事・プレーリーダーのブログとも連携させながら情報発信を行なった。

(3) 「冒険あそび場ネットだより 2015」の発行

2016年7月、前年度の活動をとりまとめ発行した。「住まいの復興」が進んだ震災発生後5年目ならではの課題に当会がどのように取り組んだのか整理すると共に、地域の方々とともに活動を進めてきた歩みを特集記事として発信した。

(4) 取材・報道等への協力

事業8. を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。

〈新聞〉 ・5月3日 河北新報「『避難の丘』第1号完成」

・10月7日 河北新報「ここから-仙台・東六郷のいま(4) 冒険広場／遊び場から元気発信」

・3月21日 東京新聞「遊び場から生まれる地域の絆」

〈情報誌〉 ・1月「みやぎのボランティア市民活動情報誌 杜の伝言板ゆるる」1月号

「子どもたちの居場所づくり 地域ぐるみで自由な遊び場を」

〈情報誌〉 ・1月 月刊「ままばれ宮城版」1月号「ままばれオススメ！ 子育てママお役立ちナビ」

〈その他〉 ・6月 仙台市政だより 表紙「ふるさとの復興について学ぶ東六郷小の児童」

〈その他〉 ・3月 仙台市 東日本大震災 仙台復興のあゆみ「自由な遊びが心を癒す 被災地回る『出張型遊び場』」

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

宮城県で初めての開催となった第7回冒険遊び場づくり全国研究集会の企画・運営に参画した。14の分科会や全体会において活発な議論がなされた。

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

遊び場づくり団体、その他NPO、行政、小学校、研究者等から寄せられる下記のような各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

・遊び場づくりへの協力依頼 →事業5. (2)「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」

・遊び場づくりの相談

柴田町太陽の村「冒険遊び場推進協議会」ほか 8/17・8/24・10/11

仙台市内の商業施設での遊び場づくりについての相談

ほか

- ・講師派遣
 - 復興庁「東日本大震災復興5周年フォーラム」コミュニティ分科会 6/6
 - 日辺まちづくり委員会「子育て支援」 8/28
 - アルファグリーンネット「第3回 みどりを活用し まちを元気にする交流フォーラム」10/8
 - にっぽん子育て応援団「地域まるごとケア・プロジェクト 地域人材交流研修会 in せんだい」11/10
 - 山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」 12/22
 - 東北学院大「コミュニティソーシャルワーカースキルアッププログラム特論演習Ⅳ」1/28
 - 大阪ボランティア協会「災害時のスペシャルニーズにこたえるために」3/21
- ・小学校の授業協力 七郷小学校「防災安全科」7/7 8/29 4/14
- ・研究者・学生からのヒアリングへの対応

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

(1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は現在も休園中だが、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営、2016年度も新たな地域で活動を展開した。(→事業8. 参照)

(2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている市民レベルの遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣した。2016年度は、事業8. で実施してきている巡回型の遊び場についても、「地域の運営主体を支援する」形を目指し、下記⑤～⑦を主催事業から支援事業へすると共に、新たに展開した⑧～⑩も支援の形で取り組んだ。

なお、日本冒険遊び場づくり協会がプレーカー事業を一般社団法人「プレーワーカーズ」に事業継承するのに合わせスタートした「プレーカー活動助成事業」においては、当会も「プレーカー運営団体」として名を連ねることとなった。その他、「プレーワーカーズ」とは随時連携しながら活動に取り組んでいる。

<事業8. 以外の遊び場活動支援> ①～④

①ふるじろプレーパークの会「ふるじろプレーパーク」

7/28 7/29 10/30 1/29 4/30 5回

②子どものまちいしのまき実行委員会「子どものまちいしのまき」 10/1・2 2日 のべ5人派遣

③仙台青年会議所「第47回 仙台七夕花火祭」での遊び場(プレーワーカーズ連携事業) 8/5 1回 2人派遣

④日辺まちづくり委員会「遊び場体験」 9/22 1回 2人派遣

<事業8. での遊び場活動支援> ⑤～⑩ (→詳細は、事業8. 参照)

⑤いわぬまあそび場の会・ニコニコキッズ「里の杜あそび場」…2016年5月～新体制での運営を支援

⑥片平地区まちづくり会 のりっば部会準備会「のりっばで遊ぼう」…2016年6月～新体制での運営を支援

⑦乳幼児室内あそび場ちびひろ「ちびひろ」…2017年4月～新体制での運営を支援

⑧にじいろクレヨン「お茶のこさいさい」…2016年6月～町内会と連携したにじいろクレヨン事業を支援

⑨田子西こだま町内会「お茶のこさいさい」…2017年7月～町内会主催の活動を支援

⑩田子西中央町内会「外で遊ぼう！」…2017年2月の試行後、4月～町内会主催の活動を支援

(3) 地域の子どもイベント等への参加

- ・若林区中央市民センター「ワカチュウ子どもランド」 10/9

- ・泉中央駅前地区活性化協議会「泉子どもの日フェスティバル」 5/5

(4) 杜々かんきょうプログラム実践

平成 21 年度に仙台市環境局・杜々かんきょう教育プログラムに提案をした幼児から対象とする環境プログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を、以下のように実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対 象
袋原保育所	10/5(水)	名取川河川敷	4・5 才児：21 名
折立保育所	10/6(木)	折立公園	5 才児：21 名
飯田保育所	10/18(火)	広瀬川河川敷	4・5 児：26 名
宮城学院女子大学付属幼稚園	10/21(金)	園庭・学内遊歩道	5 才児：48 名
新田すいせん保育所	10/25(火)	新田公園	5 才児：22 名
支倉保育所	10/27(木)	西公園	5 才児：23 名
高森サーラ保育園	10/28(金)	保育園内ホール	5 才児：25 名
コスモス将監保育園	10/31(月)	三角公園	5 才児：17 名
大野田すぎのこ保育園	11/1(火)	富沢公園	5 才児：26 名
中野栄あしぐる保育所	11/7(月)	保育園周辺	5 才児：24 名
青山保育所	11/10(木)	保育園周辺	4・5 才児：17 名
太白すぎのこ保育園	11/15(火)	富沢南公園	5 才児：24 名

6. プレーリーダーの養成に係る事業

2016 年度は、重点事業④として「ボランティアの輪をひろげ、地域住民の主体的取り組みを促す」を位置付け、人材育成を重点事業に位置付け取り組んだ。

(1) 講座等の実施

主に、事業 8. として実施する遊び場づくりの活動の中で、スタッフ・ボランティアを対象に下記講座を実施した。また、遊び場での実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

実施日	内 容	講 師	実施枠組等	対 象
2016/7/1	救急手当研修	斉藤信三 (当会プレーリーダー)	東日本再生ユースチャレンジ ・プログラム	スタッフ インターン生
2016/7/22	普通救命講習	若林消防署河原町分署	東日本再生ユースチャレンジ ・プログラム	スタッフ インターン生
2016/11/12	乳幼児/パパ・ママのための 子育て講座	横田 敬子 氏 (横田や)	赤い羽根チャリティホワイト	スタッフ ボランティア 一般
2016/12/2	乳幼児子育て相互学習会	岩沼市 ちびぞうくらぶ・ てづくりようちえん あお ぞら	赤い羽根チャリティホワイト	スタッフ ボランティア 一般
2016/12/14	プレーリーダー養成講座	天野 秀昭氏 (日本冒険遊び場づくり協会)	日本冒険遊び場づくり協会 東日本大震災復興支援事業 (大東建託グループ「みらい基金」の 支援により実施)	スタッフ ボランティア 一般
2017/1/20	震災から 5 年 子どもの育 ちと心のケア	畑山 みさ子氏 (宮城学院女子大学・ケア宮城)	平成 28 年度みやぎ県民大学 自主企画講座	スタッフ ボランティア 一般
2017/2/17	絵本で自分となかなかおり	相澤 美紀 氏 (絵本セラピスト)	平成 28 年度みやぎ県民大学 自主企画講座	スタッフ ボランティア 一般
2017/ 3/10	頑張らなくていいんだよ、 子育て	伊藤 任佐子氏 (のびすく仙台)	平成 28 年度みやぎ県民大学 自主企画講座	スタッフ ボランティア 一般
2017/ 5/18	プレーキットづくりへの 思いを聞く	鎌上 茂樹氏 (森遊クラブ)	宮城県被災者支援総合交付金 事業	スタッフ

(2) インターン生の受入れ

住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」のインターンシップ奨励プログラムによる、9か月間にわたる長期インターン生2名を受入れた。なお、本インターン制度は、4年目だった2016年が最終年度となった。その他、短期インターンとして、東北生活文化大学学生2名を受け入れた。

(3) 市職員研修の受入れ

- ・ せんだい・みやぎNPOセンター「仙台市協働人材育成事業」研修生3名（3日間）

7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

(1) 被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性についての発信

事業8.として実施する遊び場づくりの活動を通し、被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性について様々な場で発信を行なった。

(2) 県・市の行うパブリックコメント手続きにおける意見提出

仙台市が実施した下記意見募集・パブリックコメント手続きに対し意見を提出、海岸公園冒険広場再開時における地域連携を意識した提案・子どもが自由に遊べる空間づくりにつながる提案を行なった。

- ①「集団移転跡地利活用アイデア募集」
- ②「仙台市公園マネジメント方針（中間案）」

(3) のびすく若林についての、新たな運営の提案

2017年秋に市内5か所目となる親子ふれあいプラザとして開館することが決まった「のびすく若林」の指定管理者募集に際し、遊びの視点や地域連携を重視した提案を行い（NPO法人「せんだいファミリー・サポートネットワーク」とのグループ応募）、運営者となることが決まった。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

(1) 海岸公園冒険広場および周囲での活動

2015年3月で指定管理業務は終了したものの、「海岸公園冒険広場サテライト業務」は4月以降も仙台市より受託されており（下記(2)の①）、「七郷あそび場」等で引き続き冒険広場の役割の一部を担うと共に、震災発生後の公園の状況を案じる震災前の公園利用者に対し、現状や再開見通しなどを伝え続け、再開後の新たな公園への橋渡しになる取組みに努めた。また、発災直後から取り組む記録活動や視察の受入れに加え、2016年度は近隣小学校（2016年4月に荒浜小学校と統合し、沿岸部まで学区の広がった七郷小学校）の授業での冒険広場周囲での実生の苗の採取活動にも協力した。なおこの苗は、当時小4だった児童たちが育て、再開後の冒険広場に植樹される予定である。

- ・ 東六郷小学校の実施する教員夏休み現職研修「六郷東部地区の防災・減災への取組み」7/26
- ・ 七郷小学校「防災安全科」の一環での、冒険広場周囲での実生の苗採取活動 8/29 4/14
ほか

(2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

拠点としていた海岸公園冒険広場が長期休園となるなか、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った六郷・七郷地域を中心に複数個所で「遊び場づくり」活動を展開した。

目的として、震災前から冒険広場が果たしていた「あそびを通して子どもの育ちを支える」役割を担うことに加え、東日本大震災によってさまざまな不安やストレスを抱える子どもたちに対して、日々の

暮らしの中で子どもたちが自らを癒せるような環境をつくることで広い意味での「心のケア」の役割を担うことをめざして始まった。それに加え、屋外の利点を活かしての人のつながり～コミュニティづくりの場としての役割も大きくなってきている。仮設住宅での活動を5月までに終了して臨んだ2016年度は、新たに宮城野区田子西地区＝恒久住宅に移った人たちの暮らし街での活動がスタートした。

長期的な活動の継続を意識し、遊び場は「地域の運営主体を支援する」形を目指しており、下記③④⑤を支援事業に移行すると共に、新たに展開した田子西地区の⑧～⑩も支援の形で取り組んだ。（※あそび場名称前に「支援」と記載。）

＜若林区：七郷地域の遊び場＞ ①～⑤

七郷地域で実施する遊び場は、①②③⑤の4か所が「荒井公共土地区画整理地区」内にあり、④は「荒井東土地区画整理地区」にある。両地区は、隣接する荒井西・荒井南地区と共に、集団移転先も割り当てられた区画整理区域である。復興公営住宅の立地も進んでいて、新住民同士、新住民と旧住民、など多様な交流の場が期待される地域である。

① 七郷あそび場（荒井4号公園） 毎週土曜 計49回 のべ5251人

【仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務】

休園中の海岸公園冒険広場が目指していた自由な遊び場づくりを、他の公園で実現する「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施している。活動場所の荒井4号公園は、七郷小学校と七郷児童館・市民センターに隣接し、幅広い子どもたちが集まりやすい立地条件になっており、事業目的である多様な遊び場の確保・冒険遊び場の理念の普及に資する場となっている。児童館・市民センターの事業にも協働で取り組むなど、連携を深めている。活動を継続する中で居場所としての役割を増すと共に、学年を超えた交流・伝承なども多く生まれるようになっている。

② 伊在二丁目公園あそび場（伊在二丁目公園） 毎週水曜 計49回 のべ3685人

【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト→日産プレジデント基金】

25戸の仮設住宅が立地すると共に、地区最大200戸のプレハブ仮設住宅に近接していたが、いずれも秋までに全員転出・解体され、復興公営住宅も含め被災有無を問わず転居者の多い地域での出会いの場としての役割が大きくなった。乳幼児の親子も多く集まるため、2016年度も保護者中心で企画・運営する形で「ママ&パパかふおえ」（月2回午前中に実施）を継続した。

③ 「支援：4月～」上荒井公会堂あそび場「ちびひろ」（上荒井公会堂）毎週木曜 計53回 1225人

【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト→日産プレジデント基金】

②にも比較的近い、町内会運営の公会堂（集会所）を利用した屋内中心の遊び場。町内会と連携することで、新住民と地元住民がつながる機会を生むことを意識した活動である。

2016年度は、遊びに来る母親たちによる自主運営の形に移行するための試行錯誤を重ね、4月からは自主グループ「乳幼児室内あそび場ちびひろ」の主催事業となった。

④ 荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう（荒井東復興公営住宅）毎週月曜 計48回 のべ1886人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

荒井東復興公営住宅に整備された広場で、2014年11月より実施した遊び場である。一年を通し同じ場所・同じペースで開催したことで、居住者同士の交流（多世代の交流、住宅内の1号棟の子と2号棟の子など枠をこえたまざまな交流）や、公営住宅に住む親子と近隣の親子の交流が進んでいる。この一年だけで見ても、子どもたちの間で学年を越えたつながりが生まれていることを強く感じる。⑤「下荒井公会堂であそぼう」とも連携して開催している。

⑤ 下荒井公会堂であそぼう（下荒井公会堂）月2回程度 月曜日 計22回 263人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

荒井東復興公営住宅に住み始めた乳幼児親子と周辺地域の人が交流するきっかけになる場を目指して、

町内会運営の公会堂（集会所）を利用した乳幼児親子対象の遊び場である。2016年度は、一年を通じて荒井東（公営住宅）・荒井広瀬（周辺新住宅地）・下荒井3町内会の親子が訪れ、交流する場になった。

<若林区：六郷地域の遊び場> ⑥・⑦

若林区六郷東部地区で被災した仮設住宅・みなし仮設住宅居住者の多くが居住していた地域で、恒久住宅としても、二つの集団移転地（前年度整備済み）のほか、仙台市最後の復興公営住宅（2016年7月）が完成した。そのほか、この周辺に個別再建している人も多い。

一方、子どもの環境としては、東六郷小学校が2017年3月をもって六郷小学校に統合された。この一年は、その統合を見据えての活動となった。

⑥ 六郷あそび場（六郷小学校校庭） ～11月：日曜／12月～：土曜 計47回 のべ2094人 【宮城県被災者支援総合交付金事業】

六郷小学校は、自校学区域内にも浸水区域を抱えると共に、学区域すべてが津波被害を受けた東六郷小学校が移転・間借りしていた六郷中学校にも隣接している。統合を前に、東六郷小学区からの通う子も増えた。前年度に続いていた校庭の改修工事が終了、校庭を全面的に使用できるようになったが、利用再開後は遊具スペースが遊び場の拠点近くになり、遊びの展開が広がった。

六郷中学校隣接の移転先に暮らす児童など、六郷東部地域からの転居者も遊びに来てると同時に、2016年に仮設住宅から東部現地再建地域に戻った家庭の子が「近くに遊ぶ子が少ないので」と毎週のように保護者に連れられて遊びに来ていたり、話を聞いてもらいに来る大人が訪ねてきたり、仮設住宅解体後の「受け皿」になっているという側面も見られた。

⑦ 東六郷小で遊ぼう（東六郷小学校〈本校〉校庭） 計12回 のべ244人 【日産プレジデント基金】

東六郷小の最終年度となった2016年度、震災前まで使用していた〈本校〉の校庭で遊び場を実施した。人口減少が大きくみられる現地再建地域で、子どもたちが自由に遊ぶとともに、地域のさまざまな人が出会う機会づくりとして、学校行事や地域イベントとも連携しながら概ね月1回の活動を続けた。

閉校直後のタイミングだからこそ途切れさせないことを意識し、4月以降も同地での活動を続けている。周囲にも積極的に出て、田園地域の魅力も伝えていける遊び場の展開をしている。

<仙台市宮城野区：田子西地域の遊び場> ⑧～⑩

宮城野区の田子西地区・同隣接地区での活動が始まった。両地区では、4つの町内会が設立、初期を支えていた、地域住民・社会福祉協議会等による「支援者の会」が活動を終了する段階であった。そのような中、みやぎ連携復興センター、田子市民センター、支援団体であるNPO法人にじいろクレヨンから声がかかり、町内会の交流を支える遊び場・交流サロン活動に連携して取り組むこととなった。

⑧ <<支援>>お茶の子さいさい（田子西三丁目集会所）〈主催：にじいろクレヨン〉 計9回 215人

防災集団移転田子西隣接地区の南側の範囲で設立された田子西三丁目町内会より、多世代交流の場をつくりたいという声があり、NPO法人にじいろクレヨンの主催事業として2016年5月に始まった。当会は、主に集会所隣接の公園での活動を担っている。4月以降、町内会主催事業への移行に向けた準備に入った。

⑨ <<支援>>お茶の子さいさい（田子西第二復興公営住宅集会所）〈主催：田子西こだま町内会〉 計10回 330人

田子西第二復興公営住宅は集団移転地区と比べるとかなり幅広い地区から住民が集まっており、世代を超えて住民同士が知り合える場をつくりたいという町内会からの要望があり、7月より始まった。町内会から相談を受けた連携復興センターより声がかかった当団体と、同じく子ども会を経由して相談を受けたNPO法人にじいろクレヨンが協働する形で実施している。集会所内での交流サロン活動はにじいろクレヨン中心、集会所隣接の広場を当団体中心で運営しているが、できるだけ相互の行き来が生まれるよう配慮した。

⑩ <<支援>>外で遊ぼう（田子西二丁目公園）〈主催：田子西中央町内会〉 計3回 265人

田子西中央町内会は、田子西土地区画整理地区と田子西隣接防災集団移転事業地区（北側）にまたがる

範囲で設立された町内会であり、被災し移転してきた住民、震災に関係なく転居してきた住民、従前からの住民が混在している。町内会の方より、属性や世代を超えて交流できる機会をつくりたいと聞いていたこと、田子西地区4町内の住民が町内会の範囲を越えて交流できる機会がつかれないかとの模索の中で検討され、2017年2月の試行開催を経て4月から町内会主催事業としてスタートした。

<その他仙台市内で継続的に取り組む遊び場> ⑪ ⑫

- ⑪ **若林小学校あそび場** (若林区：若林小学校校庭) 月1回 計11回 のべ1087人
【～12月：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】
若林小学校・若林区中央市民センターからの「放課後子どもたちが思いっきり遊べる場がない」との相談により始まった活動は、毎月1回の開催を継続して5年目になった。おやじの会の行事への協力などにも取り組み、運営に関わる地域住民を増やしていくことを目指している。
- ⑫ <<支援>>片平地区「のりっぱであそぼう」(青葉区：まちなか農園藤坂隣接の空地) 計4回 のべ144人
2015年に「新しい東北先導モデル事業」としてスタートした取り組みだが、2016年度は、新たに立ち上がった場の運営組織「のりっぱ部会準備会」遊び場プロジェクトチームの取り組みとして再スタートを切った。近隣住民近隣住民の主体的な関わりを支援していく形で、活動を継続している。

<岩沼市で取り組む遊び場> ⑬・⑭

- ⑬ **楽農村で遊ぼう** (岩沼市：朝どり+楽農村) 計9回 のべ603人【～12月：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】
岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園における、農地の環境を活かした遊び場。2016年度も、四季を通して年間を通して活動した。都市部の親子の参加も多く、交流人口を生む効果が見られる一方、当初は少なかった近隣児童の定着も見られるようになってきた。
- ⑭ <<支援>>里の杜あそび場 (岩沼市：里の杜中央公園) 計11回 のべ626人
2013年7月から「里の杜あそび場」を継続してきた岩沼市の被災者支援事業は、仮設住宅の終了・撤去を受け2016年3月で終了したが、5月からは市民による「いわぬまあそび場の会」および学生ボランティア団体「にこにこキッズ」の主催事業として継続することとなり、これを支援した。10月には、地域の町内会・子ども会と連携しての芋煮会の実施など、地域住民に浸透するための試みを行なっている。

(3) 他団体の実施する企画への開催支援等

前年度に引き続き、遊び場活動実施地域の町内会や復興公営住宅自治会、市民センター等の夏祭りや子ども企画への協力を行なった。

- ① 七郷市民センター・七郷小おやづの会「七郷子どもクラブ」 6/4 7/16
- ② 田子西復興支援者の会「田子西復興コミュニティまつり」 6/5
- ③ 岩沼交流サロン「グリーンリーフ」協力 6/14 6/28
- ④ 若林小おやじっ子クラブ 行事 7/30
- ⑤ 上荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/6
- ⑥ 荒井東町内会 夏祭り 8/7
- ⑦ 田子西中央町内会 夏祭り 8/21
- ⑧ せんだい3.11メモリアル交流館「食べられる生き物を探しに行くツアー」 8/20 9/17 10/10 1/28
- ⑨ 岩沼東児童館 行事 10/17 12/16
- ⑩ 七郷地区子育て交流会「ママパパ交流会」 10/27 (七郷) 11/29 (蒲町)
- ⑪ まちなか農園藤坂 収穫祭 11/5
- ⑫ わたしのふるさとプロジェクト「第2回 鎮魂の花火」 1/21
- ⑬ 粋々まちなかプロジェクト「うれし楽し 蔵 de ひなまつり」

(4) 遊び場づくりと連携した、大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

遊び場と並行して実施している「ものづくり+お茶っこのみ(交流サロン)」を、仮設住宅や復興公営住宅の集会所で継続実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。臨床心理学やカウンセリングの専門家

にも入ってもらい住民のフォローをしている。また、若林区六郷地区に生まれた復興公営住宅・集団移転先での活動について、市保健福祉センターとも連携しながら状況把握・検討を継続した。その他、交流活動に取り組む他の支援団体と連携・協力した事業を行なうと共に、随時相談を受けた。

- ① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」月1回 計10回実施
- ② その他、他団体と連携した支援活動の企画・実施

(5) 沿岸部の環境調査

様々な復旧工事の進む仙台市沿岸部において、生き物の回復状況を探り、その様子から被災地域の「再生」のあり方も考えていくことを目指し、季節ごと（年4回）に海岸公園冒険広場を中心とした沿岸部の生き物を調査した。2016年度は過去5年間の記録を分析し、報告書としてまとめ、発行した。

(6) 仙台平野の居久根再生「大内さんちのイグネ再生プロジェクト」

【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト→日産プレジデント基金】

津波で被災した若林区六郷東部地区の居久根再生を目指した活動。前年度に引続き、所有者の大内氏のほか、支援団体、研究者・学生、近隣の幼稚園、一般市民有志と共に活動した。2016年度は、11月に敷地内での植樹活動も実施、居久根の再生へ一歩進んだ一年となった。

(7) 「ふるさとの杜再生プロジェクト」参加

仙台市・市民・NPO・企業等の皆様の力を結集し、海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るプロジェクト。当会もメンバーとなっており、七郷小防災安全科授業の一環での海岸公園冒険広場周辺の実生の苗の採取・育樹・枯れた苗の補充等の協力を行った。また、海岸公園での植樹祭への協力について準備した。

「事業8.」各取組みの財源別整理

	海岸公園冒険広場 サテライト業務	宮城県 被災者支援 総合交付金	赤い羽根 チャリティホワイト プロジェクト	日産 プレジデント基金	その他
① 七郷	◎				
② 伊在二丁目(旧荒井2号)			○(～12月)	○(1月～)	
③ 上荒井公会堂			○(～12月)	○(1月～)	
④ 荒井東復興公営住宅		◎			
⑤ 下荒井		◎			
⑥ 六郷		◎			
⑦ 東六郷				◎	
⑧ 田子西三丁目		◎			
⑨ 田子西第二復興公営住宅		◎			
⑩ 田子西二丁目公園		◎			
⑪ 若林小学校			○(～12月)		○(1月～)
⑫ 片平地区					◎
⑬ 楽農村(岩沼)			○(～12月)		○(1月～)
⑭ 里の杜(岩沼)			○(～12月)		○(1月～)
お茶っこ飲み等支援活動		◎			

9. 組織運営について

「震災復興後」を見据え、ミッションを実現するために団体としてどんな取り組みを進めていくべきか、昨年度に引続き検討を行い、中期的ビジョンにまとめた。

雇用環境の改善に関し、2017年2月に育児休業等についての規程類を整備すると共に、一般事業主行動計画を策定、公開した。一方、会員・寄付者の増加への取り組みについては、課題となっている。